



[京都市の景観重要建造物]

景 066 (H25)

明治から昭和初期にかけて活躍した日本画家・木島櫻谷が、御池両替町から当地に移り住んだ大正2年の建築で、アトリエや住居として使われていました。当時はまだ周辺に田園や樹林も多く、里山の風情を求めて日本画家たちが移り住んだため「衣笠絵描き村」とも呼ばれていました。

通りに面して南東隅に開いた表門から入ると、和館、その奥に洋館、北に少し離れて画室が建っています。

櫻谷一家の居住した和館は、木造2階建て入母屋屋根の主屋と、木造平屋建て入母屋屋根の玄関と、木造平屋建て切妻屋根の台所、配膳室、土間と建ち並ぶ構成が、特徴的なファサードを形成しています。2階は4室の客間で、四方が窓になっており、かつては衣笠山、北山や東山三十六峰などが見渡せました。

洋館は、奥に作品などを保管する収蔵庫があり、手前の玄関から螺旋階段を上がると洋間の展示室になっていて、漆喰壁や自然色の腰板など大正時代の特色が残っています。

画室は、画家櫻谷の元アトリエで、外観は2階建てに見えますが、中へ入ると天井の高い80畳の大画室となっています。

現在は、公益財団法人櫻谷文庫により、櫻谷の遺作・習作やスケッチ帳等の保存・公開の場として活用されています。



洋館



画室



〒603-8343 京都市北区等持院東町56

電話番号 075-461-9395

アクセス 市バス「北野白梅町」徒歩15分

ホームページ <http://www.oukokubunko.org/>